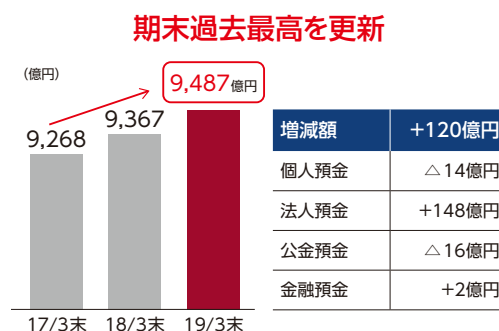


お預入れやお支払いに便利な「総合口座」をはじめ、お客さまの生活に寄り添う総合金融サービスの提供に努めております。毎月コツコツ貯められる「積立定期預金」、退職金専用定期預金や相続定期預金など目的に応じた「定期預金」など、お客さまの大切な資金を上手にためる預金商品の取扱いに加え、将来の備えに役立つ保険のご相談や、資産形成をサポートする投資信託・金融商品仲介等のご提案も行っております。

また、ニーズに応じた様々なローン商品でお客さまのライフプランの実現を後押しするとともに、外国送金や自動貸金庫などの各種サービスもご提供しております。

預金残高

法人預金を中心に増加いたしました結果、期末残高は前期末比120億円増加の9,487億円となり、期末過去最高を更新いたしました。本店を置く鳥取県内の預金残高は8,319億円となり、8割を超える高い水準となっております。



WEB口座「とりPASS」

2018年7月より、通帳を発行しないインターネット専用の普通預金口座の取扱いを開始いたしました。

預金のお引き出し・お預け入れはキャッシュカードによりATMでご利用いただけるほか、インターネットバンキングでは直近13ヶ月分の入出金明細の確認が可能です。

●スマートでエコ 新しい口座のかたち

- ・通帳の盗難や紛失の心配がなくなり、再発行の手続きも不要となります
- ・紙を使用しないため、二酸化炭素の削減に貢献する環境にやさしい商品です



とりぎんアプリをバージョンアップ

2018年8月 とりぎんアプリをバージョンアップし、普通預金口座が最大5口座まで登録可能となりました。



キャッシュレス決済に対応

さまざまな決済手段に対応

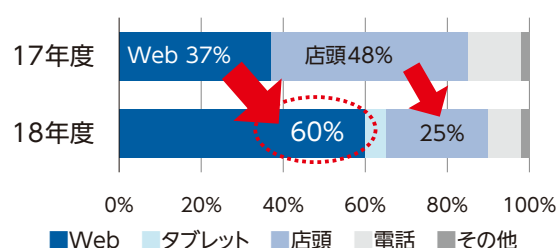
- ・各種電子決済業者との連携で当行口座から即時チャージ・接続が可能（19年7月末で7社と連携）
- ・楽天Edy
- ・Yahoo!ウォレット
- ・LINE Pay
- ・メルペイ
- ・J-Coin Pay
- ・支払秘書
- ・Origami Pay

- ・お客さまの利便性向上のため、電子決済事業者との連携を拡大

ローン

お客さまによりご利用いただきやすい商品とするため、マイカーローンやカードローンの商品改定を行いました。また、ホームページで行えるWeb申込みの充実を図り、タブレット端末の活用を進めたことにより、消費者ローン等のWeb申込比率が拡大しております。

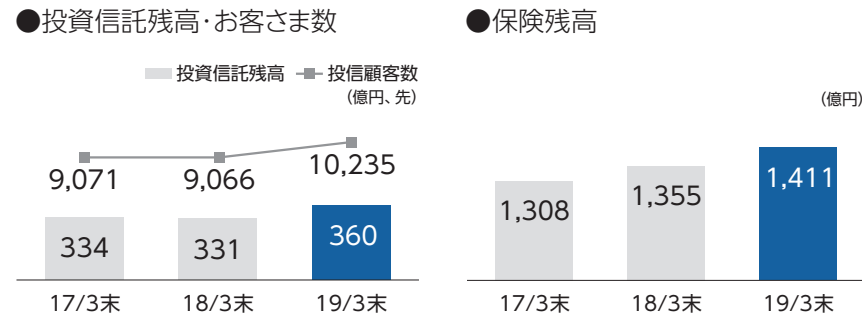
●消費者ローンの申込受付チャネル



- ・返済口座不要型カードローンを導入
- ・マイカーローンは申込対象者を18歳以上に拡大

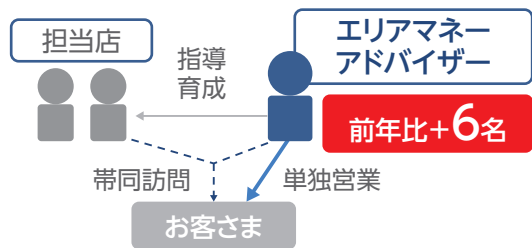
預かり資産

長期的な資産運用に役立つ手段として、少額から始められる積立投資等をご提案した結果、投資信託残高は360億円となったことに加え、投資信託顧客数が初めて1万先を越える10,235先となり、幅広い世代のお客さまの資産形成を支援しています。



高度で専門的な資産運用をご提案するエリアマネーアドバイザーを6名増員した14名体制とし、ご提案の内容や質の向上に努めています。

資産を増やしながらかご家族にのこせる商品や、認知症やがんへの備え、ネットで完結する医療保険など、さまざまなニーズに合わせて保険商品のラインナップを充実しております。



お客さま本位の業務運営方針

鳥取銀行は、お客さまの資産運用及び資産形成にかかる業務について、「お客さま本位の業務運営方針」を策定・公表しております。本方針の下、当行役職員は一体となってお客さま本位の姿勢を貫き、安定的な資産形成に貢献できるよう、お客さまの最善の利益を図る取組みを進めてまいります。また、お客さま本位の業務運営を実現させるため、その取組状況について定期的に公表するとともに、本方針を定期的に見直します。

1. お客さま本位の業務運営の浸透

- ・研修等を通じ、役職員に対して「お客さま本位の業務運営方針」に基づく行動の徹底を図ってまいります。
- ・お客さまの最善の利益を図るため、お客さまとの対話を大切にし、ご意見などをふまえた各種施策等に役職員一体となって取組んでまいります。

2. お客さまへの適切な提案と情報提供

- (1) お客さま本位の適切な提案と情報提供への取組み
 - ・お客さまへの資産運用のご提案にあたり、お客さまの目的の把握に努め目的に沿った商品をご提案してまいります。
 - ・お客さまの年齢・知識・経験・財産の状況をふまえ、提案する商品の仕組みやリスク、手数料等について、わかりやすく丁寧な説明に努めてまいります。
 - ・保有資産の運用状況や投資環境の変化など、お客さまの投資判断に必要な情報を提供し、丁寧なアフターフォローを行ってまいります。

(2) お客さまの投資判断に資する手数料等の透明性向上

- ・お客さまの投資判断に資するよう、商品毎の手数料等の透明性を高めるとともに、丁寧に説明するように取組んでまいります。なお、保険販売時の代理店手数料については、投資信託と同じ特性を有する特定保険から開示を行っています。

(3) お客さま本位の取組みを促進する業績評価体系の整備

- ・お客さまの目的に沿った営業活動を評価するために、特定の運用商品の販売に偏らないバランスの良い業績評価体系の構築に努めてまいります。

(4) お客さまの資産運用に資する取組み

- ・資産運用に関するパンフレットなどを活用したお客さまへのご案内や、お客さま向けセミナーの定期開催による情報提供を行ってまいります。
- ・インターネットを利用した非対面チャネルでの情報提供の充実にも取組んでまいります。

3. 多様なニーズにお応える商品ラインナップなどの整備

- (1) 商品ラインナップなどの整備
 - ・お客さまの目的やリスク許容度などに応じた商品選択が可能となるよう、取扱商品の充実に取組んでまいります。

(2) 商品選定手続きの整備

- ・特定の投資運用会社や保険会社等に偏ることなく幅広く取扱商品を検討し、お客さまの目的やご希望にお応えできる商品・サービスの選定に努めてまいります。

4. お客さまの資産運用・形成に資する人材の育成

- ・お客さまへ資産運用をご提案する役職員について、研修受講や外部資格の取得を推奨し、取扱商品や市場環境に関する知識・スキルの向上を図ってまいります。

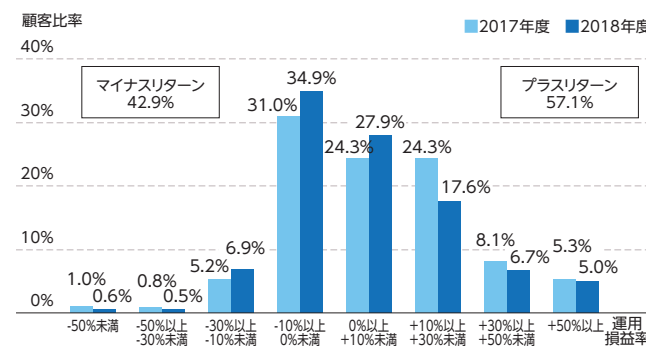
成果指標 (KPI) の公表

当行では、お客さま本位の業務運営方針にもとづき、「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」に加え、取組み状況と成果指標 (独自KPI) をホームページで公表しております。

■投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI (2019年3月末基準)

●投資信託の運用損益別顧客比率

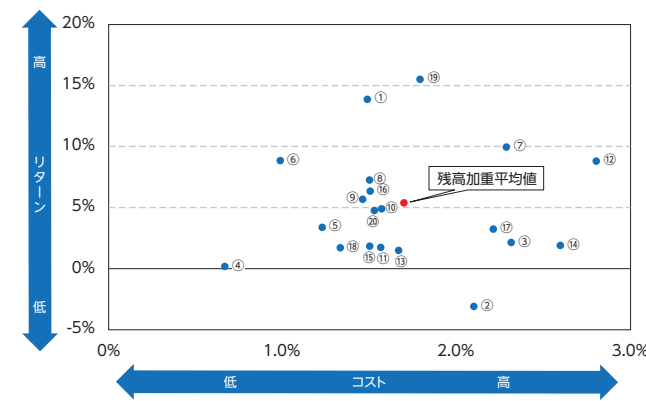
運用損益がプラスになっているお客さまの比率は、57.1% (2018年3月末比 -4.9%) となりました。



(注) ・当行の投資信託口座による個人のお客さまの取引を対象
 ・運用損益は[基準日時点の評価金額+累計受取分配金額(税引後)+累計売付金額-累計買付金額(含む販売手数料(税込))]+基準日時点の評価金額(時価評価額)で計算
 ・基準日時点までに全部売却・償還された銘柄は対象外
 ・当該銘柄の購入当初まで遡及

●投資信託の預り残高上位20銘柄のコスト・リターン

預り残高上位20銘柄の平均コストは1.70%、平均リターンは5.39%となりました。

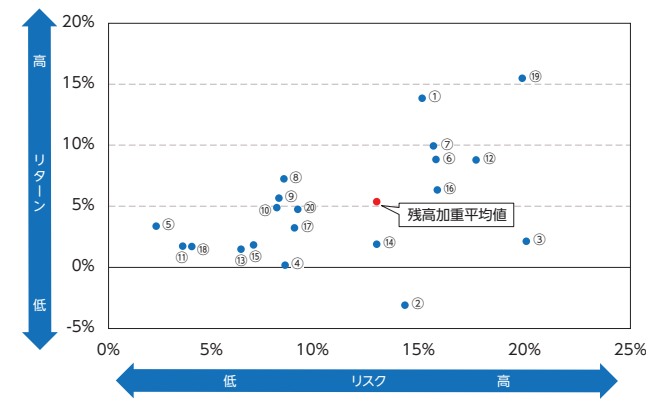


(単位: %)		
銘柄名	コスト	リターン
① ひふみプラス	1.49	13.87
② メキシコ・ボンド・オープン(毎月決算型)	2.10	-3.10
③ HSBC ブラジル債券オープン(毎月決算型)	2.32	2.14
④ MHAM 豪ドル債券ファンド(毎月決算型)	0.67	0.18
⑤ 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	1.23	3.38
⑥ ストックインデックスファンド225	0.99	8.85
⑦ ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) B	2.29	9.96
⑧ DIAM J-REIT オープン(毎月決算コース)	1.51	7.26
⑨ 世界の財産3分法ファンド毎月分配型	1.46	5.68
⑩ 財産3分法ファンド(不動産・債券・株式) 毎月分配型	1.57	4.90
⑪ UBS 公益・金融社債ファンド(為替ヘッジあり)	1.57	1.74
⑫ グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	2.81	8.81
⑬ グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	1.67	1.49
⑭ 野村テンプルトン・トータル・リターン Dコース	2.60	1.90
⑮ パン・パシフィック外国債券オープン	1.51	1.84
⑯ 優良日本株ファンド	1.51	6.35
⑰ 米国バンクロンファンド<為替ヘッジなし>(毎月分配型)	2.21	3.24
⑱ 日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月)円ヘッジあり	1.34	1.71
⑲ 高成長インド・中型株式ファンド	1.79	15.51
⑳ のむらっぴ・ファンド(普通型)	1.54	4.76
2019年3月末 残高加重平均値	1.70	5.39
前年度末 残高加重平均値	1.82	6.88

(注) ・対象銘柄: 預り残高上位20銘柄(設定後5年以上、私募投信除く)
 ・コスト: 基準日時点の販売手数料率(税込)の1/5と信託報酬率(税込)の合計値
 販売手数料率は当行の最低取扱額での料率
 信託報酬率は目論見書上の実質的な信託報酬率の上限(その他費用・手数料を含まず)
 ・リターン: 過去5年のトータルリターン(年率換算)
 騰落率算出の際に用いる基準価額は分配金再投資後(税引前)の基準価額を使用

●投資信託の預り残高上位20銘柄のリスク・リターン

預り残高上位20銘柄の平均リスクは12.85%、平均リターンは5.39%となりました。

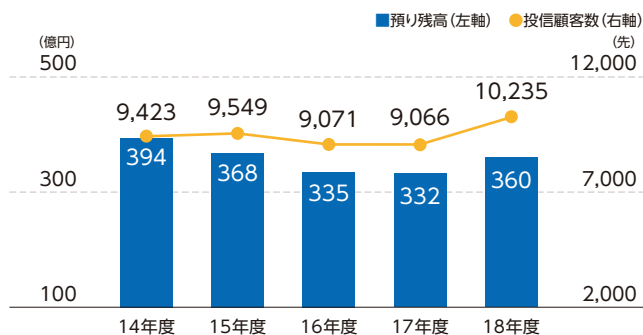


(単位: %)		
銘柄名	リスク	リターン
① ひふみプラス	15.03	13.87
② メキシコ・ボンド・オープン(毎月決算型)	14.17	-3.10
③ HSBC ブラジル債券オープン(毎月決算型)	20.00	2.14
④ MHAM 豪ドル債券ファンド(毎月決算型)	8.49	0.18
⑤ 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	2.25	3.38
⑥ ストックインデックスファンド225	15.69	8.85
⑦ ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) B	15.56	9.96
⑧ DIAM J-REIT オープン(毎月決算コース)	8.42	7.26
⑨ 世界の財産3分法ファンド毎月分配型	8.15	5.68
⑩ 財産3分法ファンド(不動産・債券・株式) 毎月分配型	8.05	4.90
⑪ UBS 公益・金融社債ファンド(為替ヘッジあり)	3.55	1.74
⑫ グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド	17.56	8.81
⑬ グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	6.34	1.49
⑭ 野村テンプルトン・トータル・リターン Dコース	12.84	1.90
⑮ パン・パシフィック外国債券オープン	6.94	1.84
⑯ 優良日本株ファンド	15.78	6.35
⑰ 米国バンクロンファンド<為替ヘッジなし>(毎月分配型)	8.90	3.24
⑱ 日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月)円ヘッジあり	3.96	1.71
⑲ 高成長インド・中型株式ファンド	19.83	15.51
⑳ のむらっぴ・ファンド(普通型)	9.07	4.76
2019年3月末 残高加重平均値	12.85	5.39
前年度末 残高加重平均値	13.20	6.88

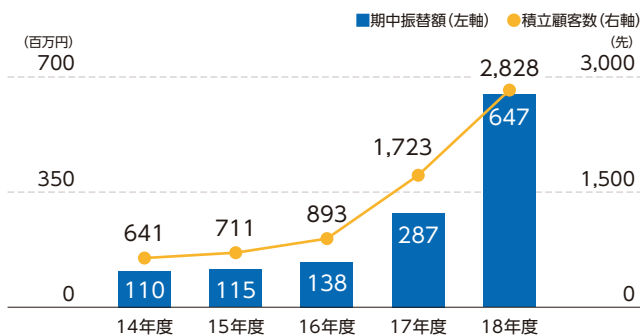
(注) ・対象銘柄: 預り残高上位20銘柄(設定後5年以上、私募投信除く)
 ・リスク: 過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)
 ・リターン: 過去5年のトータルリターン(年率換算)
 騰落率算出の際に用いる基準価額は分配金再投資後(税引前)の基準価額を使用

■取組み状況と成果指標(独自KPI) (2019年3月末基準)

●投資信託の顧客数、および時価残高

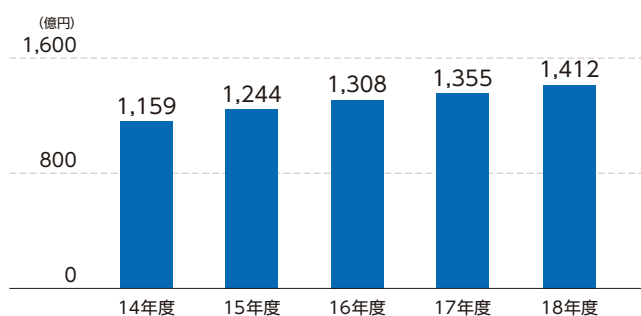


●投資信託の積立契約の状況



・当行では、幅広いお客さまの資産形成に貢献できるよう、毎月1,000円から投資信託の積立契約をご利用いただけます。

●一時払保険残高

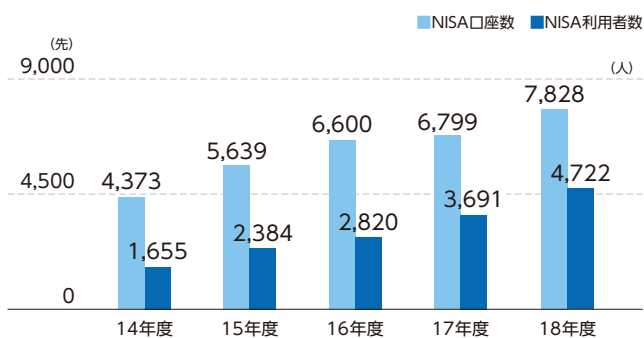
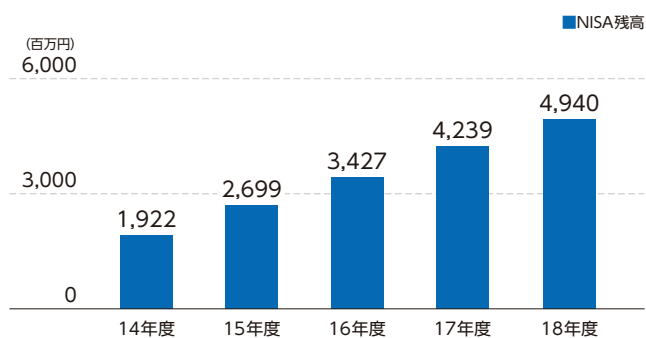


・保険の残高は契約の累計額で表示しています。

●お客さま向けセミナー、相談会の実施回数

	18年度開催回数	うち休日
全体	178回	110回
うち 資産運用セミナー	19回	16回
うち くらしとお金のセミナー	20回	2回
うち 休日相談会	86回	86回
うち その他	53回	6回

●NISA(少額投資非課税制度)の状況



詳細につきましては、当行ホームページ(<http://www.tottoribank.co.jp/others/unei/index.html>) もご参照ください